

あつぎ舞台アカデミー

～厚木から未来のスターを～

「子どもたちの才能を発掘し育てたい」。あつぎ舞台アカデミーは、厚木高校出身で劇作家・演出家の横内謙介さん（あつぎ文化芸術特別大使・文化振興財団芸術監督）の強い思いから生まれました。

第一線で活躍する講師から演技とダンス、歌の指導を受け、日々成長を続ける子どもたち。

自分に秘められた可能性を見つけ大きく羽ばたこうとしています。

夢を描いた手作りの舞台

厚木シアタープロジェクトの一環として、2010年に開校されたアカデミー。毎年夏休みの終わりに舞台公演「ドリーム・ドリーム・ドリーム」を文化会館で披露しています。子どもたちの指導に当たるのは、横内さんのほか、振付師のラッキィ池田さんと彩木エリさん、ハロープロジェクトなどのアーティストのボーカルレッスンをする上野まり子さんです。子どもたちが描くさまざまな夢から仕立てられた台本を基に、一つの舞台作品を創り上げます。

★ 厚木シアタープロジェクト★

横内さんが主宰する劇団原産と文化会館、市民応援団（ボランティア）が一体となって、市の演劇文化を高めようと1999年にスタートした文化振興財団の事業。市民が本物の舞台に立てる公演や人材育成などを展開し、市の芸術文化を広く発信しようとする取り組みです。



舞台を元気に跳ね回る子どもたち。毎年春に新メンバーが募集される



▲丁寧に演技指導をする横内さん
▼レッスンに励む子どもたち

団結して創る舞台で大きく成長

アカデミーに参加しているのは、小学4年から中学2年までの子どもたち。「すごい先生に教えてもらえるのでレッスンが毎回楽しみ」「公演をやり遂げると感動で大泣きしちゃう」「本音をぶつけ合える大切な仲間ができた」と瞳を輝かせます。

子どもたちが大きな成長を遂げる場合は、公演前に行われる夏休みの集中稽古。多くの人と団結して舞台を創る1か月間は、かけがえない時間となります。メンバー内のオーディションを勝ち抜いた者だけがソロで歌う権利を獲得できるなど、切磋琢磨し合える環境があります。横内さんは「自らを輝かせる術を身につけ始めている。これは将来どんな道に進んでも生きてくる力となる」と教え子の成長に目を細めます。

秘められた可能性を見つけ羽ばたく

アカデミーの卒業生の中には、オーディションに合格しテレビなどに出て活躍し始めている子もいます。脚光を浴びる舞台に立つことは、子どもたちにとって決して遠い世界の話ではありません。「今まいている種が将来、どんな花を咲かせるか本当に楽しみ」と期待に胸を膨らませる横内さん。「自分の中に眠っている可能性を今こそ発見してもらいたい」と力を込めます。

優れたアーティストを育てる「人づくり」と、エンターテインメントとして成立する「舞台づくり」を実践するアカデミー。未来のスターが今、文化会館の舞台で最初の一步を踏み出しているのかも知れません。そして「やがては厚木市を、優れた人材と作品を生み出す文化芸術の拠点に…。高く掲げた目標に向け横内さんの挑戦は続きます。



公演のクライマックスではオリジナルソング「キズナの翼」を熱唱